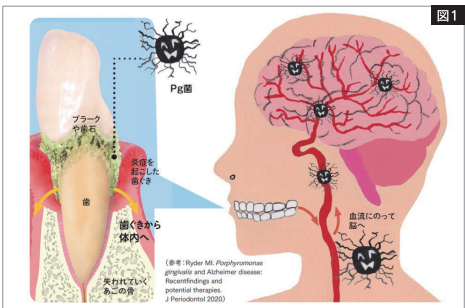


歯周病を退治し、認知症を予防しましょう

歯周病原菌が認知症を進行させる!?

歯周病は、歯に付着した歯周病菌が原因で起きる病気です。多種類の歯周病原菌がバイオフィルムと言われる塊を形成し、歯周病を進行させます。その歯周病原菌の中でも、*P.gingivalis*、*T.forsythia*、*T.denticola*が存在すると、歯周病は重症化すると言われています。最近、*P.gingivalis*がアルツハイマー型認知症と深くかかわっていることが分かってきました(図1)。歯周病で、*P.gingivalis*が歯茎の中に入って、血流に乗って、脳へ侵入します。アルツハイマー型の認知症では、*P.gingivalis*が多く感



▲歯周病原菌である*P.gingivalis*(Pg菌)が歯茎から入って、脳で悪さをする様子(本文参照)。(「クイント ニコ」2021年4月号から引用)



▲歯周病治療を終了し、20年間メンテナンスを受けている89歳女性。歯周病は完治し、メンテナンス期間中に歯周病で失った歯はゼロ。21本の歯を有している。89歳とは思えないほど頭脳明晰である。

染し、ジンジパインと言われる酵素を分泌します。ジンジパインは脳の神経細胞やたんぱく質を変性させてアルツハイマー型認知症を進行させていると考えられています。

歯周病原菌の感染を検査し、歯周病を撃退しましょう。

前述のような*P.gingivalis*、*T.forsythia*、*T.denticola*などの歯周病原菌に対する検査を、遺伝子工学的あるいは酵素学的方法で調べることが可能です。歯周病を治すうえで大切な検査であると同時に、認知症などの全身の状態のリスクを知ることできます。

歯周病は完全に抑制できる病気です。歯周病で歯を失うことは、ほとんどありません。

歯周病は、*P.gingivalis*、*T.forsythia*、*T.denticola*のような歯周病原菌を退治することによって、完全に予防できます(図2)。また、仮に歯周病になっても、ほとんどの歯周病は治すことができます。きわめて重症の歯周病は例外ですが、通常、適切な治療を行えば、歯周病で歯を失うことはほとんどありません。歯周病を予防し、治療し、健康ライフを過ごしましょう! ぜひ、専門家に相談されて下さい。

※高度先進医療は保険外診療になることがあります。



医療法人
くらのうえ市丸歯科
院長市丸英二先生

長崎大学歯学部大学院卒業後、米国スタンフォード大学医学部研究員を務める。長崎大学臨床教授、日本歯周病学会認定専門医・指導医、日本口腔インプラント学会インプラント専門医として活動中。

TEL.0942-81-5410
在/島根市東上2丁目187番地 URL www.10shika.jp